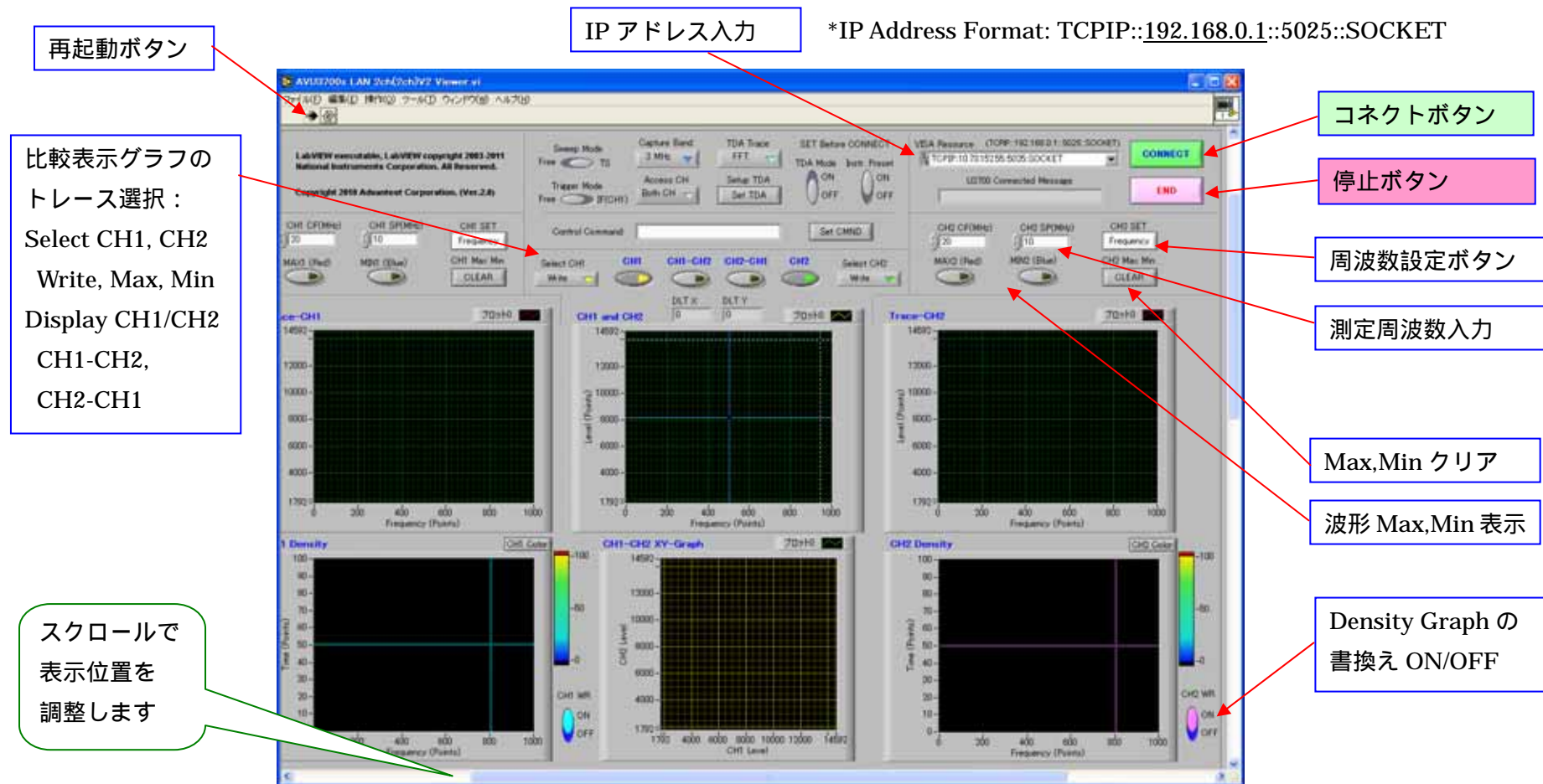
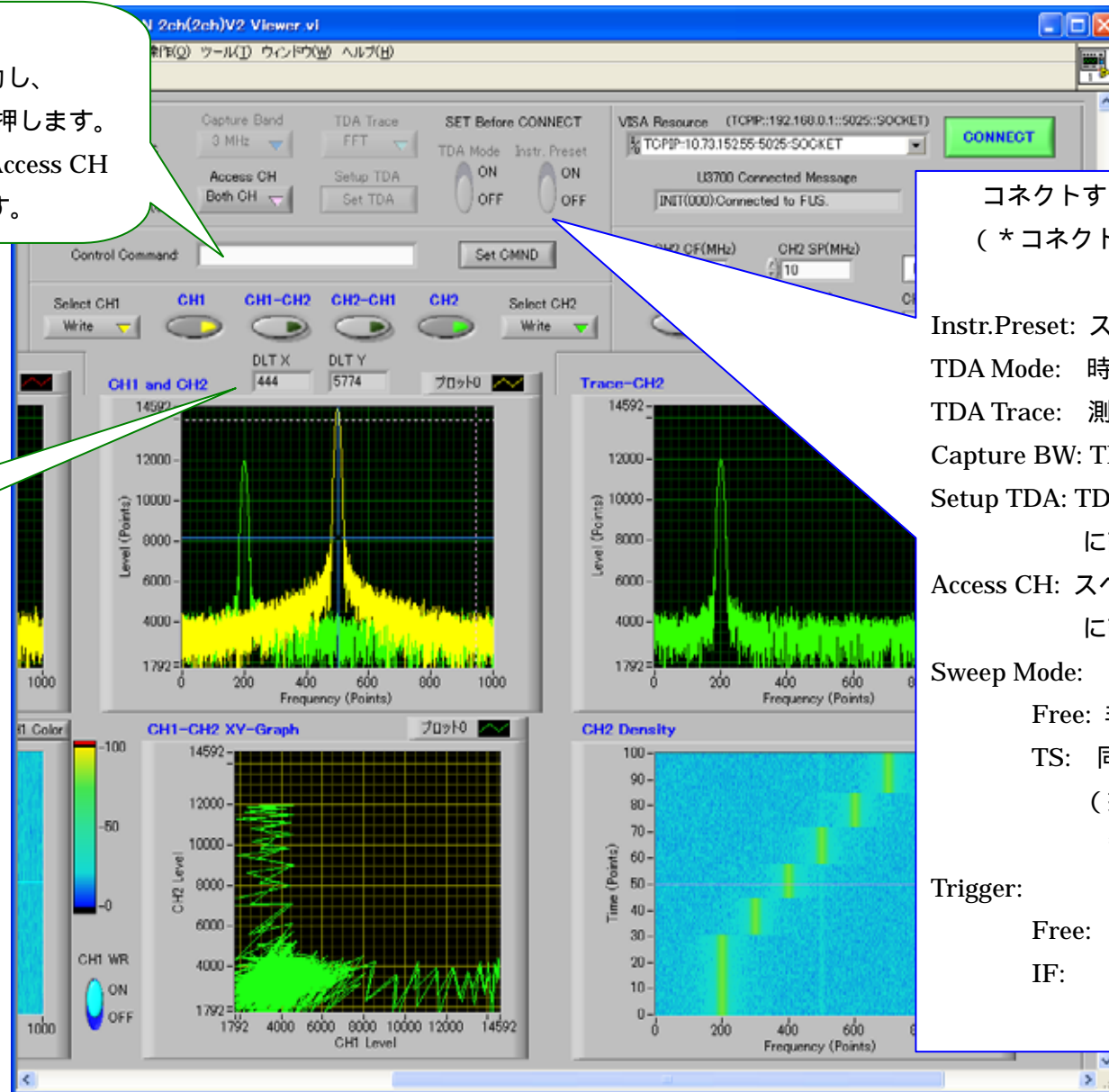


1. インストール：ディレクトリ Installer の中の setup.exe を実行します。(動作条件：Windows XP, Microsoft ネットワーク等)
2. 起動：スタート > すべてのプログラム > U3700 2ch(2ch) Graph Viewer > 2ch(2ch) Graph Viewer を実行します。
3. 測定準備：スเปアナの IP アドレスを確認し、メニューの IP アドレス欄に入力します。CONNECT ボタンを押します。
4. 停止と再起動：END ボタンで停止します。そのまま終了は×ボタン、再起動は右上の [= >] ボタンを押し CONNECT ボタンを押します。
5. 下記の図面で操作ボタンの説明を行います。



スペアナ直接制御：
 GPIB コマンドを入力し、
 Set CMND ボタンを押します。
 CH1/CH2 の設定は Access CH
 モードで選択できます。

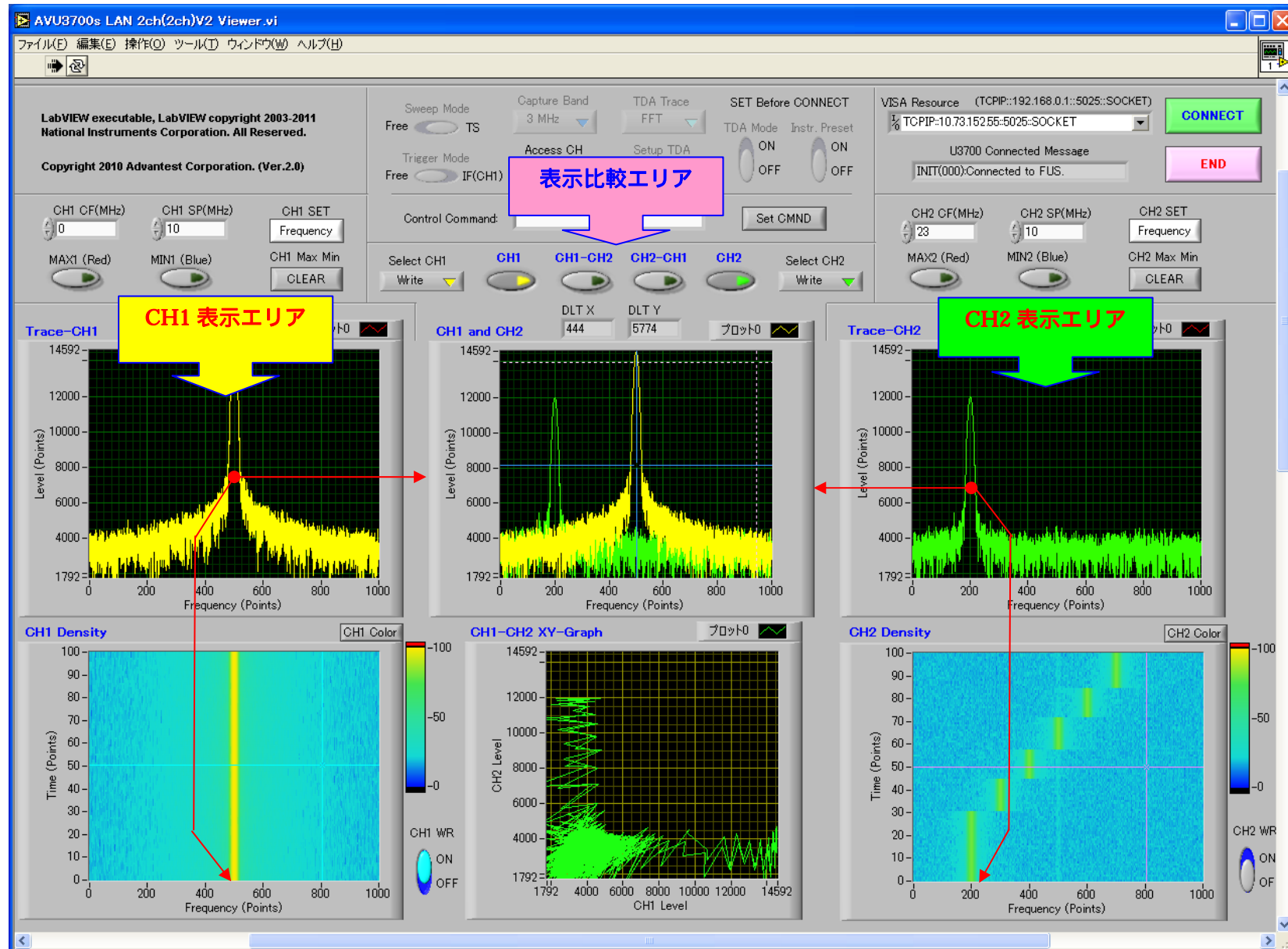
デルタ X,Y 表示
 (カーソル位置)



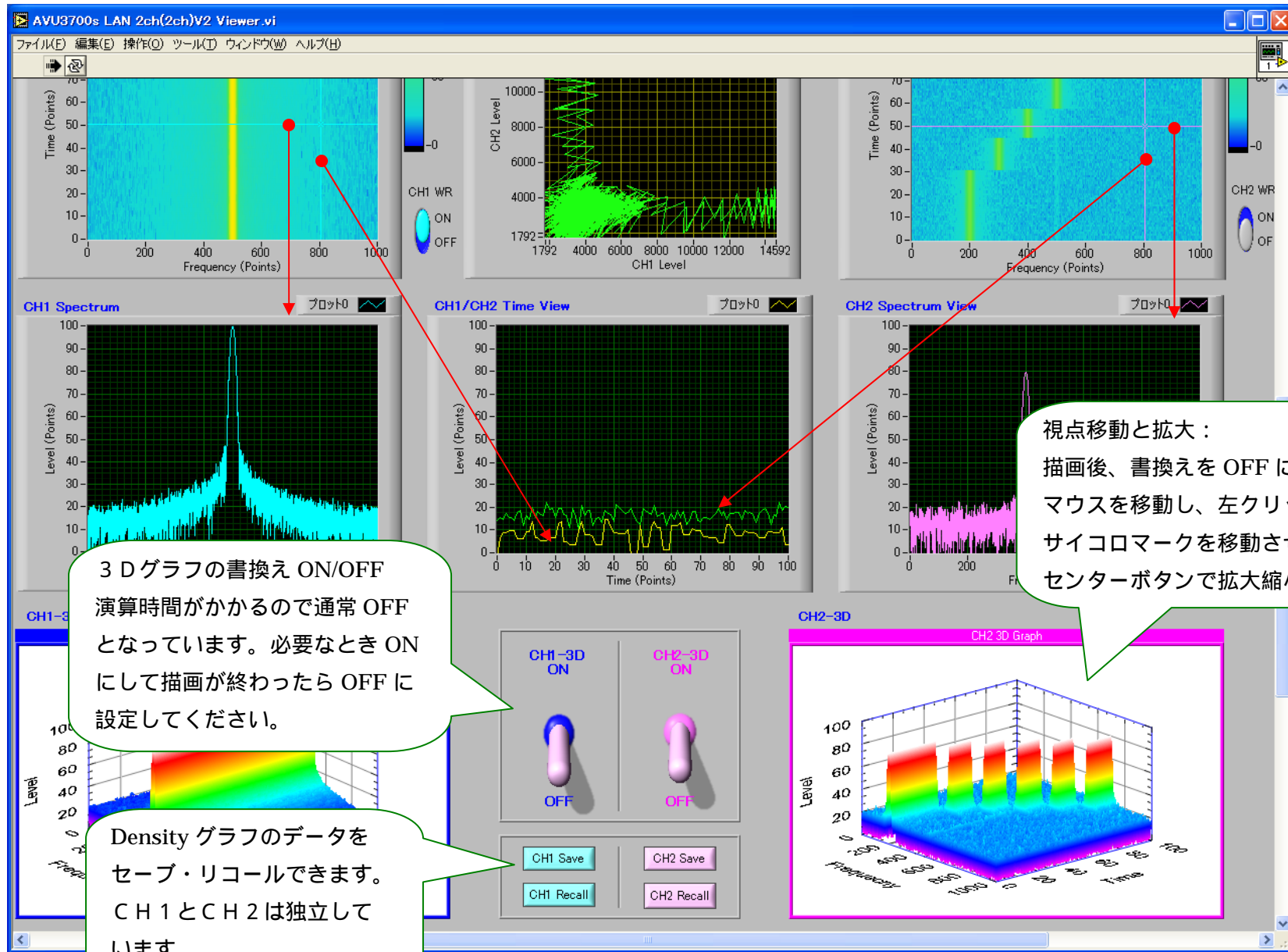
コネクトする前に設定する
 (*コネクト後は設定不可)

Instr.Preset: スペアナを初期設定
 TDA Mode: 時間解析モード On/Off
 TDA Trace: 測定表示データの選択
 Capture BW: TDA 帯域幅の選択
 Setup TDA: TDA 測定条件をスペアナ
 に設定する。
 Access CH: スペアナのどのチャンネル
 に設定するか選択
 Sweep Mode:
 Free: 非同期にデータ取得
 TS: 同期してデータ取得
 (掃引終了毎に取得)
 *Take Sweep
 Trigger:
 Free: フリーラン
 IF: IF に同期して掃引
 (バースト波必要)

画面の左側が見えるようにスクロールバーで移動します。



画面の下側が見えるようにスクロールバーで移動します。



デモンストレーション手順とグラフの説明

1. スペアナの I P アドレスを入力します。(デフォルトはスペアナをローカル接続した 192.168.0.1 になっています。クロスケーブルが必要)
2. CONNECT を押します。すぐに U3700 Connected Message 枠にスペアナからの応答が表示されます。
3. スペアナの初期設定が実行され 2 ~ 3 秒後に波形表示を開始します。(表示されない場合は一度 X ボタンで終了し接続等のチェックを行う)

CH 1 , CH 2 グラフ :	スペアナの CH 1 , CH 2 の独立した測定波形データが表示されます。 波形データの Max , Min 表示が可能です。(表示されてなくても演算を行っています) Max, Min 演算データのクリアは必要なときにクリアボタンを押します。
X - Y グラフ :	同一周波数における CH 1 のレベルを X 軸、CH 2 のレベルを Y 軸に配置します。(周波数は 1001 個) もし、CH 1 と CH 2 が同じであれば、 $y = x$ で 45 度の直線となります。信号の周波数やレベルが変わると いろいろな形に変わり信号の変化がひと目で分かります。(周波数ズレ、レベルズレ、帯域ズレなど)
CH 1 and CH 2 :	CH1 と CH2 の波形が比較できます。CH1 および CH 2 の波形モードを選択し、 \pm 演算ができます。
Density :	スペクトラムを上からみて、その信号の強さを色で、時間的变化を Y 軸で観ています。 このグラフには、X カーソル、Y カーソルがあり、そこの部分のデータは別のグラフに表示されています。 Y カーソルは Spectrum View で、ある時間におけるスペクトラムが観測できます。 X カーソルは Time View で、ある周波数のレベル変化を時間軸で観測できます。 それぞれのカーソルはマウスで移動できます。また、必要なときに、書換えを OFF にしますと、ゆっくり と観測できます。なお、このグラフのデータはチャンネルごとにセーブとリコールが出来ます。
3 D Graph :	それぞれのチャンネル・データが 3 次元で観測できます。演算に多少時間がかかりますので、観測したい 波形の書換えが終了しましたら書換えを OFF にしてください。また、マウスにより視点角度や大きさが 変更できます。